

第三節 方言

「ヤットカメダナー」、「マメダカナ」、「久し振りですね」、「元氣ですか」、に代表される知多地方の方言も、懐しい会話になりつつある。

現在、方言を使う人は四十代以上になり、若い人の大半は共通語を使用するようになった。若い人達の間で使用される方言は、仲間うち言葉として、仲間意識を強調するために使われているようだ。

知多市内の方言は、地域によってかなりの違いをみせている。尾張弁、名古屋弁につながる八幡地区（八幡・新知・佐布里・亥新田）、三河弁につながる旭地区（日長・新舞子・大草・大興寺・金沢・南粕谷・北粕谷）、その両方につながっている岡田地区（岡田）、に分けることができる。

これは、合併以前の独自性を表わし、言葉から文化・経済圏の結びつきが推測できるのではないだろうか。

旧三町時代の意識は、市になった現在も高齢者の中に根強く残されている。方言は同じ意味を持つ言葉であっても、言葉ははっきりと区別され、地域性を知ることができる。

交通網の発達、地域開発、市外からの人びとの移入によって生活環境は変化しているが、仲間意識や地域性の表示としての方言の使用は、まだ根強く残っていると考えられる。

しかし、現実には、方言の使用される場面は狭められ、さらに共通語と方言を使用する場所を区別しているため、親から子、子から孫へ

と受け継がれていく方言はだんだん少なくなっている。

今回の方言調査では、地域による区別、方言の分析・語法は『知多市誌』の本文編に記載したため、市内で使用されている方言を、使用地域を明記せず、共通語を見出しとして、五十音別にした。

(一) 日常生活で使われている方言

共通語

方言

「あ」

仰向く

あけなさい

あちら側

上がりなさい

ありますよ

赤ん坊

あちら

あつくない

有りません

あの辺り

歩く

ありったけ

あなたの家

あなた

アアヌク

アケヤー

アツチャベタ

アガリヤー

アルニ、アルヨ

アカ

アツチャ

アツナイ

アリヤセン、アラシン

アスコラ

アヨブ

アリタケ

アンタトコ、アンタガレ、オミヤ

シトコ

アンタ、オミヤー

あの人
あなたたち
あのね
あご
あれ
あのような
赤くなる
遊ぶ
汗も
当たらない
当て推量
甘い
あれだけ
有りませんか
あれやこれや
暖かい
間
温まる
有難う
足場板
青瓜
青初茸
頭

アノジン
アンタタチ
アンナー
アゴタ
アイツ
アンナ、アレギニ
アコナル
アスブ
アセボ
アタラセン
メッソ、アテズッポ
アマアラシイ
アンダケ
ナイカ、ナイカン
ナンデモカンデモ、ナンノカンノ
スクタイ、スクトイ
アイサ
スクトナル
オオキニ
アヨビ、アシバ
サイウリ
アオハチ
スコタ、スコ

頭のとっぺん（器具などの）
熱くて湯気が立つ
あげなさい
網
尼さん
あか貝
「い」
いらっしゃる
いけない
一休みしなさい
入物
行きますか
行きましょう
行かなければならない
行かれた
行きなざる
行こうと思う
いやみだ
いらぬ
言わない
いばっている
居間

ズッコ
ボカボカ
アゲヤー、ヤリヤー
タモ
ビクニン
チンメ
オイデル、ゴザル
アカン、イカスカ
イッブクヤリヤー、イッブクヤリ
ナイ
イレモン
イコカ、イコカン
イコマイ、イコカ
イカンナラン
イカシタ
イカッセル
イカストオモウ
ヤーラシイ
イラセン、イラン
イヤセン、イワン
エライキ
オオエ

いない
急ぐ
急いでする
いやです
一昨日
言った(悪口)
いくらやっても
いらっしゃった
いたずらする
いらだつ
忙しい
いばる
いいところ
いつも
いや
居る
居る(卑語)
田舎
痛い
以前に
粹
今まで一度も
いかようにも

オラン、オリヤセン
チャツト
チャツトコイテヤル
ヤダネ、ヤダベ
オトトイ
コキヤガル、コイタ
イックラゝヤツテモ
ゴザッタ
ワヤスル
キガモメル
ヤカマシイ、セワシイ
リキム
エートコ
ジツト
ヤダ
ゴザル
オリヤガル、ケツカル
ザイゴ
イテヤー、アチカー
センド
ダイツウ
イッペンモ、ツイゾ
ドウナト

何れ
一向に
いらっしゃい
いろいろ取りまぜる
勢いがよい
いやな
いい
いいかげん
「う」
一番いい着物を着てきた
奪い合う
動かずにじっとしていなさい
裏口
うまく
嘘をつく
うすのろ
植木
植える
うつむく
うらやましい
動く
「え」
縁起が悪い

ドツチモ
トント
オイジャー
マゼコゼ
ヤーキガエエ
ヤーラシイ
エエ
タイガイ、テヤーギヤ
イッチョーローソクトボーテキタ
バヤクル・トリヤイ
ジツトシトレ、ヤシコシトレ
セド、セドグチ
アンバヨウ
ウツソコク
アンボン
イエキ
イエル
ハム、クウナル
ケナルイ
イゴク
ケタクソガワルイ、ケタイワルイ

縁起

疫痢

えんびつ

えびす講

絵どる

縁先

選ぶ

「お」

教える

お父さん

お母さん

お兄さん

お姉さん

おじいさん

おばあさん

奥さん

雄

恐ろしい

おいでなさい

置きなさい

恐れる

おどける

重い

ギザ

ハヤテ

インビツ、エンペツ

エブスコ

エドクル

アガリハナ

ヨル、エル

オソエル

オトツツアン

オッカー、カカサ

アニサ、アニー

アネサ、アネー

ジッサ、ジイサン

ババサ、バアサン

カカア、ゴッサン

オン、オンタ

オソガイ、オソギヤー

オイジャー

オキヤー、オカッセ

オゾム

オチヨケル

オモタイ

重くなった

お前

尾

おおばこ

お金

大あわてにあわてた

押しつぶした

押しつぶす

押し麦

驚いた

同じこと

おい（呼びかけ）

おやりになった

おはじき

怒る

女

おひなさま

終る

お上がり下さい

おもちゃ遊び

おもちゃにする

折る

後をしたって追いかける

オモナッタ、オモタナッタ

オヌシ、オノシ

オッポ、オンポ

オンパコ

ゼニ

トチメンボカワヤータ

ヒシャイタ、シャイタ

シャーク

シャーケムギ

ビックリコイタ

ヒトツコト、ウンナジコト

ヤイ

ヤラシタ

ヨーラメ

リンキ、タケル

アマツチョ、アマ

オヒナイサン

アガル

オアガリヤス

モダハラ

モダゴト

ヘシオル

オワエル

第3節 方 言

おおげさ
大人びる
お入りなさい
追う
おはぎ
多い
起きぬけ
おもいきり
大方
おっしゃる
遅くなる
おそまつさま
「か」
階段
金持
かつこうが良い
カン
帰りなさい
かつぐ
買っていらっしやい
貝
蟹
書いた物

アラケナイ
ジジコドモ、コビトル
ハイリヤー、ハイトクレ
ボウ
ボタモチ
ギョーサン
オキシマ
ヤケクソ、セーイッピヤー
アラカタ
イワッセル
オソナル
オソソソサマ
ハシゴダン
ブゲンシヤ、オオヤサン
カッコガエエ、イチガヨウテ
カンガラ、カンカン
カエリヤー、モドリヤー
カヅク
カッターリヤー、カッテコイ
キヤー、カンギラ
ガニ
キヤータモン

かかと
蚊
蛙
かけまわる
片方の目
紙袋
かまど
かじる
風邪を引いた
返す
必ず
海水浴
がっかりする
干潮
かんしゃくもち
かがし
がまんできない
片足とび
飾る
かがむ
かがんでいる
顔
かけっこ

アクト
カンス、カンスケ
ギヤーロ、ガイロ
カケズリマワル
ガンチ
カンブクロ
クド
ケシル
カゼヒータ、カゼフータ
カヤス
キット
シオトージ
ショゲル
ヒル、ソコヒ
カッター、オコリンボ
カカシ、ソメ
タマラン
チンギリ、チンギラ、ケンケン
シャレル
チョゴム、シャガム
チョンドル、チョゴンドル
ツラ
ハシリヤー、ハシリヤイ